

第3章

都市の将来像

1. 芝山町の将来像
2. 将来都市構造

第3章 都市の将来像

1 芝山町の将来像

(1) まちづくりの目標

見直しにあたっての基本理念や住民意向、まちづくりの主要課題と対応方向などを踏まえ、本町が目指すべきまちづくりの目標を次のように設定します。

時と人が交わるスカイゲートシティ

～誰もが暮らしやすい 持続的に成長する都市～

「時」は、はにわの時代から受け継いできた本町の歴史・文化、圏央道全線供用開始や成田空港の更なる機能強化に伴う新たなまちづくりなど、古いものと新しいものが共存する姿を表しています。

「人」は、本町の住民や就業者をはじめ、周辺都市や国内外からの観光客など、多様な人々が行き来する姿を表しています。

この「時」と「人」の交流を通して、成田空港南側の玄関口となる「スカイゲートシティ」として、町の利便性や魅力が高まり、誰もが安全・安心、快適に暮らすことができる、持続的に成長する都市の実現を目指します。

(2) 目標年次

本計画の目標年次は、計画策定から概ね 20 年後の 2038 年とします。

なお、本町においては、圏央道の全線開通（2024 年度予定）、成田空港の更なる機能強化（2030 年度頃に発着回数 40 万回程度、旅客数 6,000 万人程度）など、まちづくりに大きなインパクトを与える大型プロジェクトが概ね 10 年程度で完了見込みであることから、20 年後の長期的なまちづくり戦略を見据えつつも、それらのインパクトを適切に受け止め、町の活力創出に波及させていくために優先的に取り組むべき方策を計画に位置付けます。

計画策定後は、まちづくりの進捗や社会経済情勢等を踏まえながら、長期的なまちづくり戦略の実現に向けて、適宜計画の見直しを図っていくこととします。

【目標年次】 2019 年 >>>> 2038 年

(3) 目標人口

目標年次 2038 年時点の目標人口については、7,500 人と設定します。

本町の人口については、このままの傾向でいけば将来的に減少すると推計されていますが、成田空港の更なる機能強化に伴う空港関連就業者等の増加などの波及効果を適切に受け止め、本町への定住促進に向けた一体的な取組みを推進していくことで、将来的にも現在の人口規模を確保するとともに、更なる人口増加を目指します。

【目標人口】 2038 年：7,500 人






2

将来都市構造

まちづくりの目標『時と人が交わるスカイゲートシティ ～誰もが暮らしやすい 持続的に成長する都市～』の実現に向けて、本町が目指す将来都市構造を設定します。







(1) 「拠点」の役割

「拠点」は、商業・業務、居住、レクリエーションなどの都市活動や、日常生活の中心となるエリアを示すものです。

名 称	役 割
中心拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 芝山町の居住・文化・交流・行政・業務の中心となる市街地です。 ○ 住民の生活利便性の向上に資する都市機能の誘導を図るとともに、移転対象者や新規定住者のための居住地整備等を推進し、密度の高い市街地形成を目指します。
スカイゲート拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成田空港への近接性や鉄道駅を有する特性を活かし、成田空港南側の玄関口にふさわしい高次元の都市機能の誘導を図る市街地です。 ○ 新たなにぎわいの創出や、雇用の場の確保に資する土地利用誘導を目指します。
田園型居住地創出拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 良好な営農環境を有するとともに、成田市の市街地に隣接し、比較的高い生活利便性を有するエリアです。 ○ 優良農地を保全しながら、「農ある暮らし」を実現する田園型居住地の新しいモデルを創出します。
観光交流拠点  (既存)  (構想)	<ul style="list-style-type: none"> ○ スカイパークしばやま、芝山仁王尊、芝山公園をはじめとする既存の地域資源の活用や、圏央道 IC 周辺での新たな地域振興施設の創出など、町内外からの利用を見据えた広域的な拠点として、観光交流機能の充実を図ります。








(2) 「都市軸」の役割

「都市軸」は、都市の骨格をなす道路や公共交通など、人やモノの円滑な移動を確保する主要な動線を示すものです。

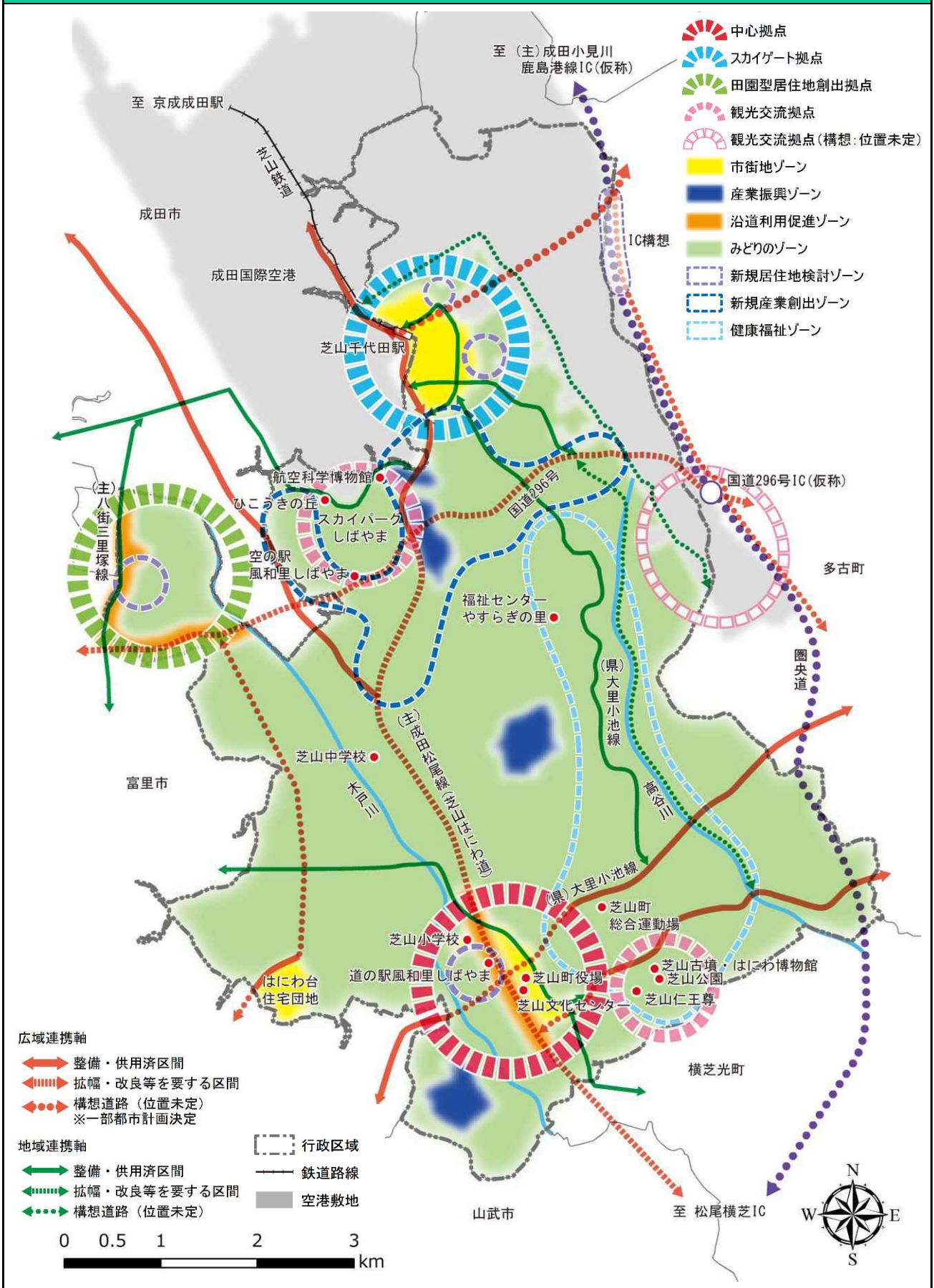
名 称	役 割
広域連携軸  整備・供用済区間  拡幅・改良等を要する区間  構想道路 (位置未定) ※一部都市計画決定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本町と周辺都市を結ぶ道路網で、人とモノの移動を支え、町の発展に繋がる広域的な連携軸です。
地域連携軸  整備・供用済区間  拡幅・改良等を要する区間  構想道路 (位置未定)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広域連携軸を補完するとともに、町内の各拠点を結ぶ道路網です。

(3) 「ゾーン」の役割

「ゾーン」は、同じ特性・役割を有する連続した土地利用を、面的に誘導する範囲を示すものです。

名 称	役 割
市街地ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 居住と生活サービスが混在する、複合的な市街地です。 ○ 既存機能の維持・充実を図るとともに、新規居住地の整備や空き家等の活用、にぎわい創出に資する新たな土地利用の誘導など、市街地の“質”と“密度”の向上に向けた取組みを図ります。
産業振興ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成田空港への近接性を活かした工業・物流企業等が立地する産業系市街地です。 ○ 操業環境の維持と更なる充実を図ります。
沿道利用 促進ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広域連携軸となる国道 296 号、主要地方道成田松尾線（芝山はにわ道）の沿道を中心に、住民や道路利用者の利便性を支える、沿道型サービス施設等の立地誘導を促進します。
みどりのゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本町の農業を支える農地や河川・丘陵地などの自然環境、郊外に点在する既存集落や住宅地によって構成されたゾーンです。 ○ 既存集落等の維持・活性化と営農・自然環境の保全・活用を図りながら、人と環境の共生を図ります。
新規居住地 検討ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周辺環境や既存ストックに配慮しながら、空港拡張に伴う移転対象者のための居住地や、増加が見込まれる空港従業者の定住の受け皿となる居住地など、人口の確保に資する新規居住地の創出を検討・推進します。
新規産業 創出ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広域連携軸となる国道 296 号、主要地方道成田松尾線（芝山はにわ道）の沿道を中心に、成田空港と圏央道 IC への近接性を活かした、新たな産業系土地利用の計画的な誘導を図ります。
健康福祉ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉センターをはじめ、デイサービスや特別養護老人ホームなどの高齢者用福祉施設や、芝山公園や総合運動場などの健康促進施設が立地したゾーンです。 ○ 既存施設の維持・充実や更なる健康増進に資する場の整備を推進し、高谷川周辺の美しい田園環境と一体となった健康福祉機能の強化を図ります。

将来都市構造図





芝山町の将来都市イメージ

※このイメージは、芝山町が目指す将来都市構造図を基に、各拠点やゾーンでの暮らし・交流のイメージを模式化したものです。範囲等は実際とは異なりますので、ご注意ください。

